

### 3. 第21回生命表について

今回公表する完全生命表は、通算して20回目(第7回は欠番)にあたる平成22年の完全生命表であり、平成22年国勢調査による日本人人口(確定数)、人口動態統計の確定数(平成22年死亡数、平成21年及び平成22年出生数)を基礎資料として作成している。

平成22年の第21回生命表における平均寿命は、男79.55年、女86.30年であり、前回の完全生命表と比較して、男は0.99年、女は0.78年上回った。

平均寿命の年次推移をみると、戦前は50年を下回っていたが、昭和22年の第8回生命表の平均寿命は男50.06年、女53.96年と50年を上回った。その後、男は昭和30年の第10回生命表で60年、昭和50年の第14回生命表で70年を上回り、女は昭和25-27年の第9回生命表で60年、昭和35年の第11回生命表で70年、昭和60年の第16回生命表で80年を上回った。(表2)

表2 完全生命表における平均余命の年次推移

(単位:年)

	年次		男						女					
	西暦	和暦	0歳	20	40	65	75	90	0歳	20	40	65	75	90
第1回	1891-1898	明治24-31年	42.8	39.8	25.7	10.2	6.2	2.6	44.3	40.8	27.8	11.4	6.7	2.7
2	1899-1903	32-36	43.97	40.35	26.03	10.14	6.00	2.22	44.85	41.06	28.19	11.35	6.61	2.36
3	1909-1913	明治42-大正2	44.25	41.06	26.82	10.58	6.31	2.38	44.73	41.67	29.03	11.94	7.09	2.61
4	1921-1925	10-14	42.06	39.10	25.13	9.31	5.31	1.95	43.20	40.38	28.09	11.10	6.21	2.04
5	1926-1930	大正15-昭和5	44.82	40.18	25.74	9.64	5.61	2.17	46.54	42.12	29.01	11.58	6.59	2.24
6	1935-1936	10年度	46.92	40.41	26.22	9.89	5.72	2.14	49.63	43.22	29.65	11.88	6.62	2.09
8	1947	昭和22年	50.06	40.89	26.88	10.16	6.09	2.56	53.96	44.87	30.39	12.22	7.03	2.45
9	1950-1952	25-27	59.57	46.43	29.65	11.35	6.73	2.70	62.97	49.58	32.77	13.36	7.76	2.72
10	1955	30	63.60	48.47	30.85	11.82	6.97	2.87	67.75	52.25	34.34	14.13	8.28	3.12
11	1960	35	65.32	49.08	31.02	11.62	6.60	2.69	70.19	53.39	34.90	14.10	8.01	2.99
12	1965	40	67.74	50.18	31.73	11.88	6.63	2.56	72.92	54.85	35.91	14.56	8.11	2.96
13	1970	45	69.31	51.26	32.68	12.50	7.14	2.75	74.66	56.11	37.01	15.34	8.70	3.26
14	1975	50	71.73	53.27	34.41	13.72	7.85	3.05	76.89	58.04	38.76	16.56	9.47	3.39
15	1980	55	73.35	54.56	35.52	14.56	8.34	3.17	78.76	59.66	40.23	17.68	10.24	3.55
16	1985	60	74.78	55.74	36.63	15.52	8.93	3.28	80.48	61.20	41.72	18.94	11.19	3.82
17	1990	平成2	75.92	56.77	37.58	16.22	9.50	3.51	81.90	62.54	43.00	20.03	12.06	4.18
18	1995	7	76.38 (76.46)	57.16 (57.22)	37.96 (38.00)	16.48 (16.50)	9.81 (9.82)	3.58 (3.58)	82.85 (82.96)	63.46 (63.55)	43.91 (43.98)	20.94 (20.98)	12.88 (12.90)	4.64 (4.65)
19	2000	12	77.72	58.33	39.13	17.54	10.75	4.10	84.60	65.08	45.52	22.42	14.19	5.29
20	2005	17	78.56	59.08	39.86	18.13	11.07	4.15	85.52	65.93	46.38	23.19	14.83	5.53
21	2010	22	79.55	59.99	40.73	18.74	11.45	4.19	86.30	66.67	47.08	23.80	15.27	5.53

注:平成7年( )内は阪神・淡路大震災の影響を除去した値である。

生命表における各種の生命関数により、日本における生存及び死亡状況をみる。

(1) 死亡率 ( $q_x$ )

死亡率を平成17年の第20回生命表と比較すると、男女ともほとんどの年齢で低下している。

死亡率の年次推移をみると、昭和22年の第8回生命表から昭和50年の第14回生命表までは0歳から30歳代で、第14回生命表から第21回生命表までは0歳から30歳代と70歳代を中心として低下率が大きくなっている。(図1-1、図1-2)

(2) 死亡数 ( $d_x$ )

10万人の出生児が生命表上の年齢別死亡率にしたがって死亡していくとした場合の死亡数をみると、男女とも10歳代から増加し、男では85歳(3,997人)、女では91歳(4,772人)でピークを迎えた後、急速に減少している。

生命表における死亡数のピークは、回を追うごとに高齢に移動している。(図2-1、図2-2)

(3) 生存数 ( $l_x$ )

10万人の出生児が生命表上の年齢別死亡率にしたがって死亡していくとした場合の生存数をみると、全年齢階級において回を追うごとに増加している。寿命中位数(出生児の半数(完全生命表では、5万人)が生存すると期待される年数)は、男82.60年、女89.17年で、回を追うごとに延びている。(図3-1、図3-2)

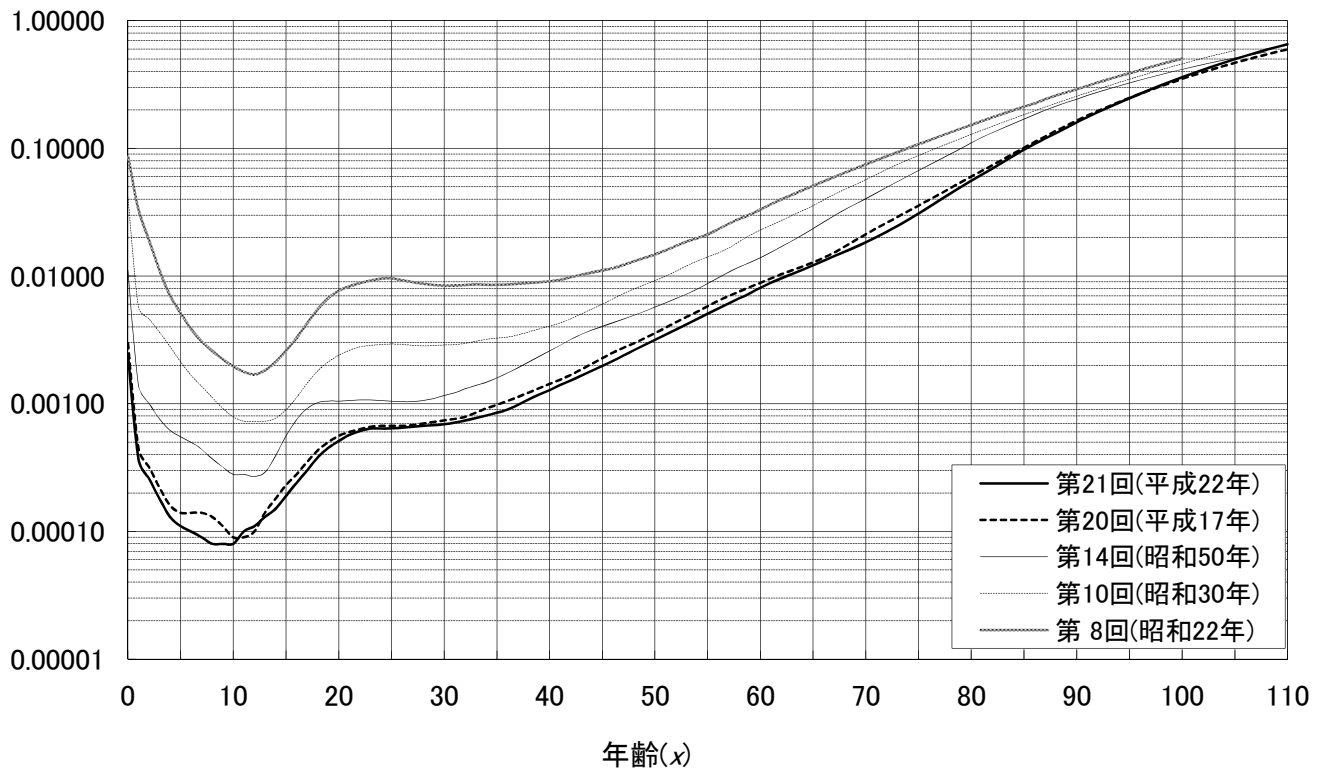
(4) 平均余命 ( ${}^{\circ}e_x$ )

0歳における平均余命(平均寿命)は、男79.55年、女86.30年となっている。20歳における平均余命は、男59.99年、女66.67年、65歳における平均余命は、男18.74年、女23.80年となっている。

平均余命の年次推移をみると各年齢とも回を追うごとに延びている。(表2、図4-1、図4-2)

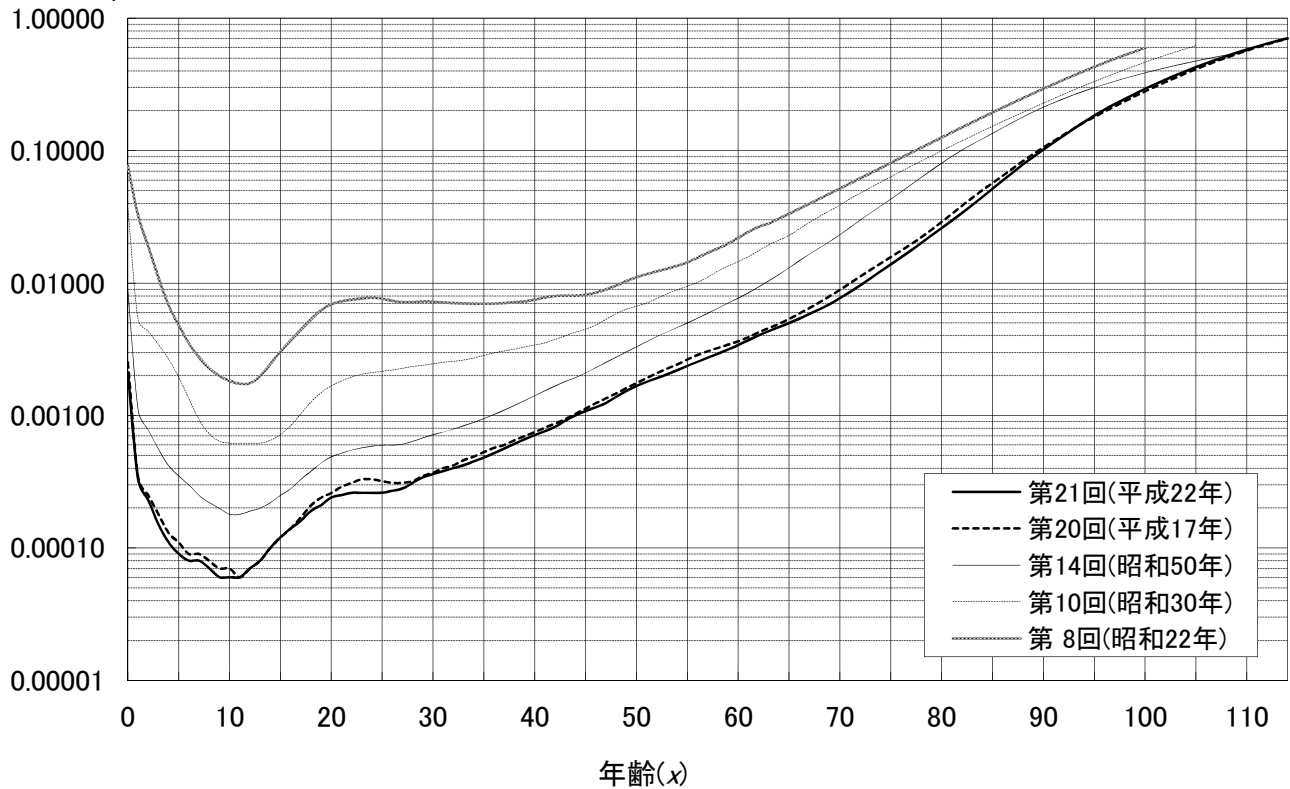
死亡率( $q_x$ )

(図1-1) 死亡率の推移(男)



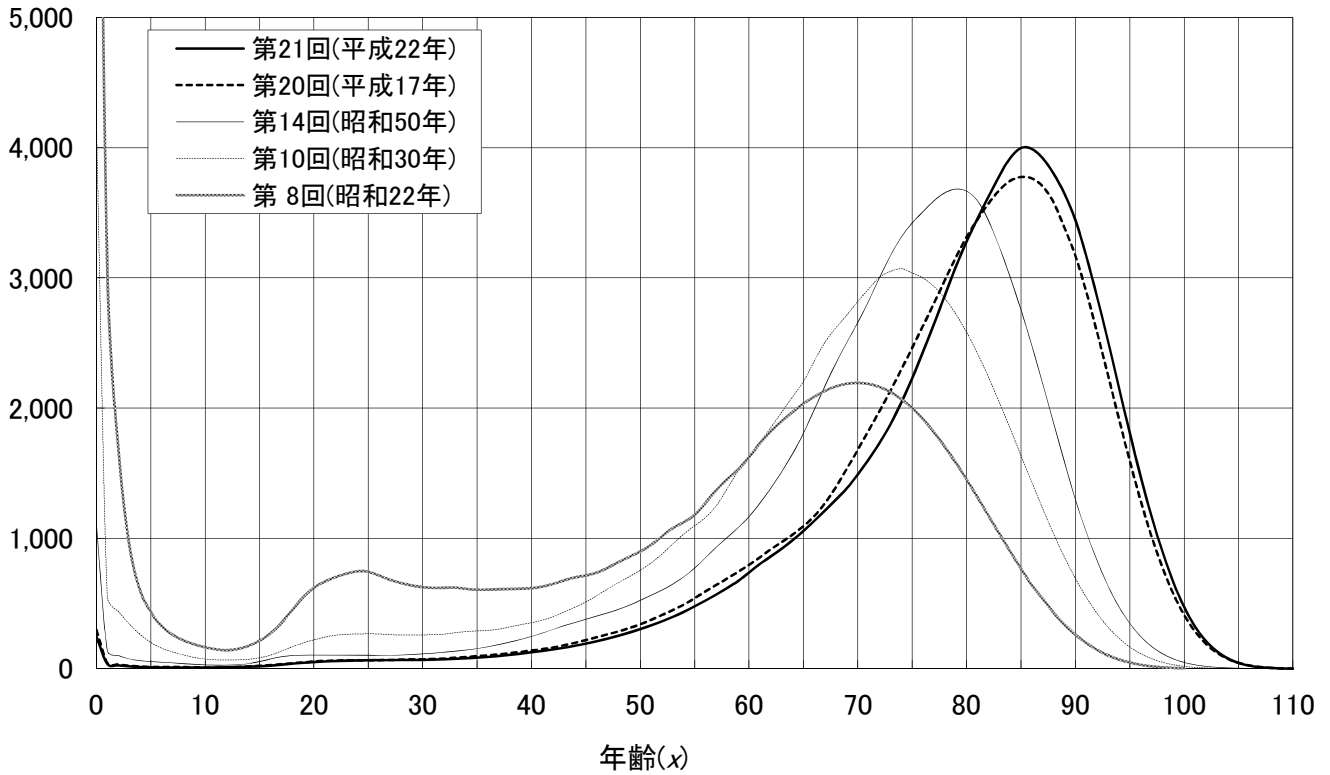
死亡率( $q_x$ )

(図1-2) 死亡率の推移(女)



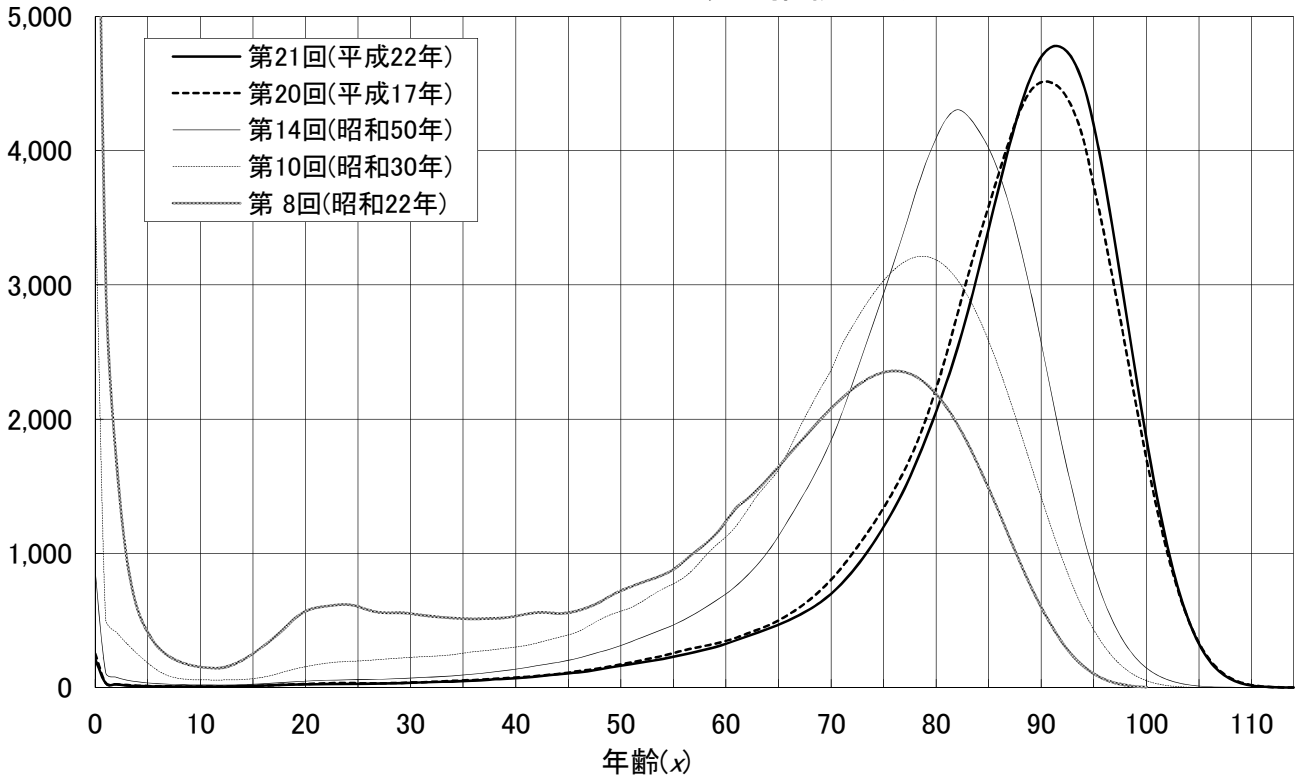
死亡数( $d_x$ )

(図2-1) 死亡数の推移(男)



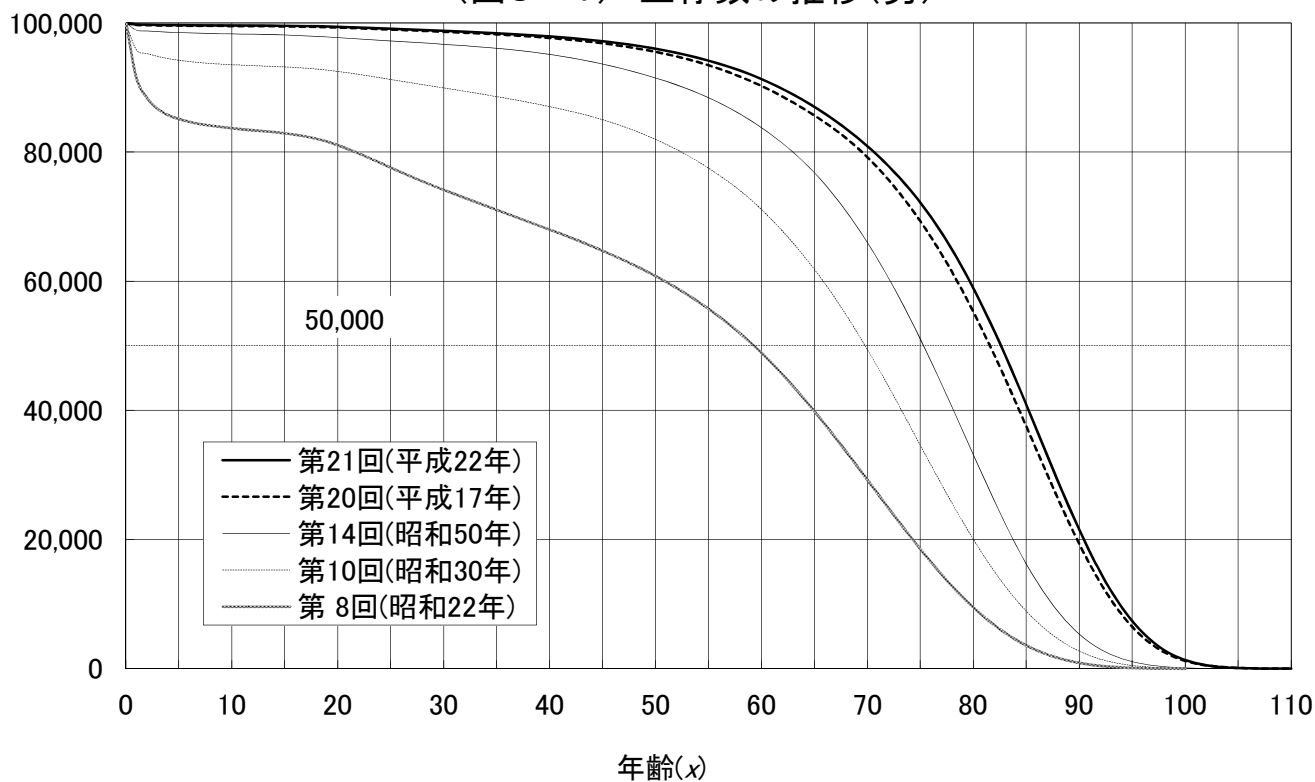
死亡数( $d_x$ )

(図2-2) 死亡数の推移(女)



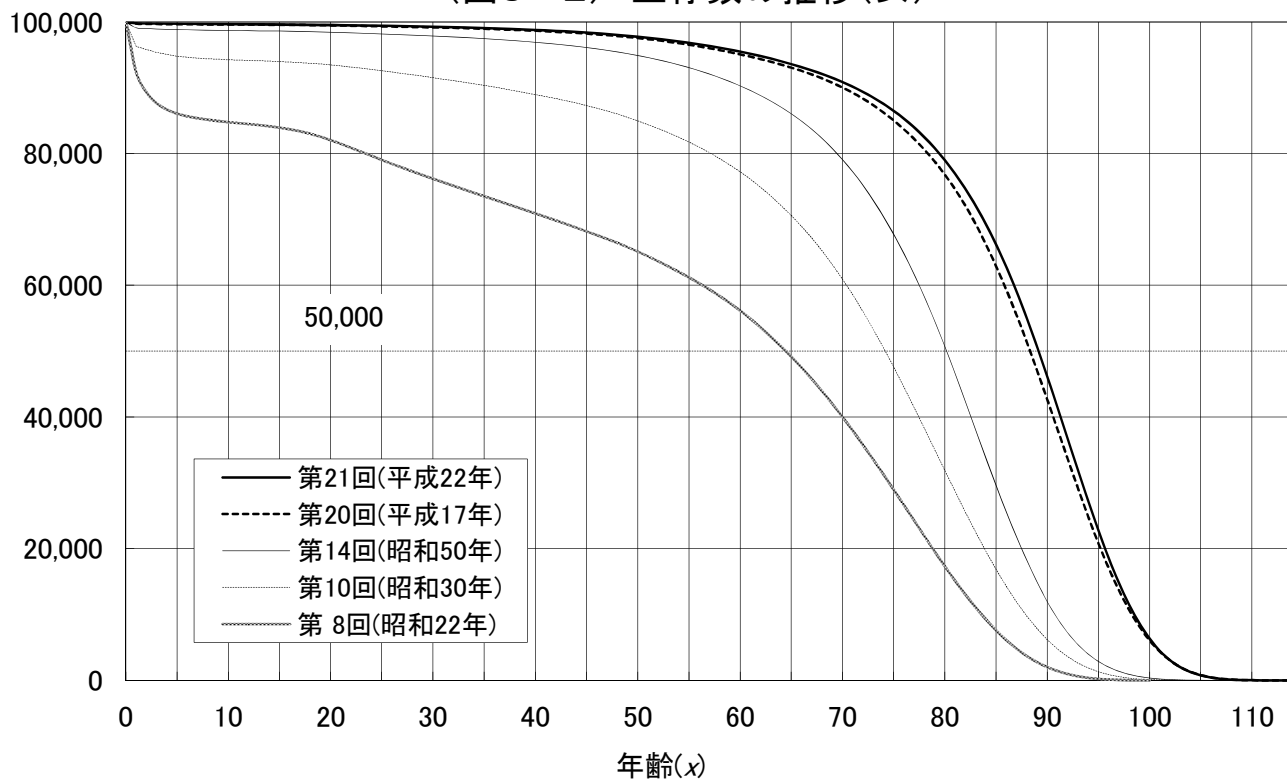
生存数( $l_x$ )

(図3-1) 生存数の推移(男)



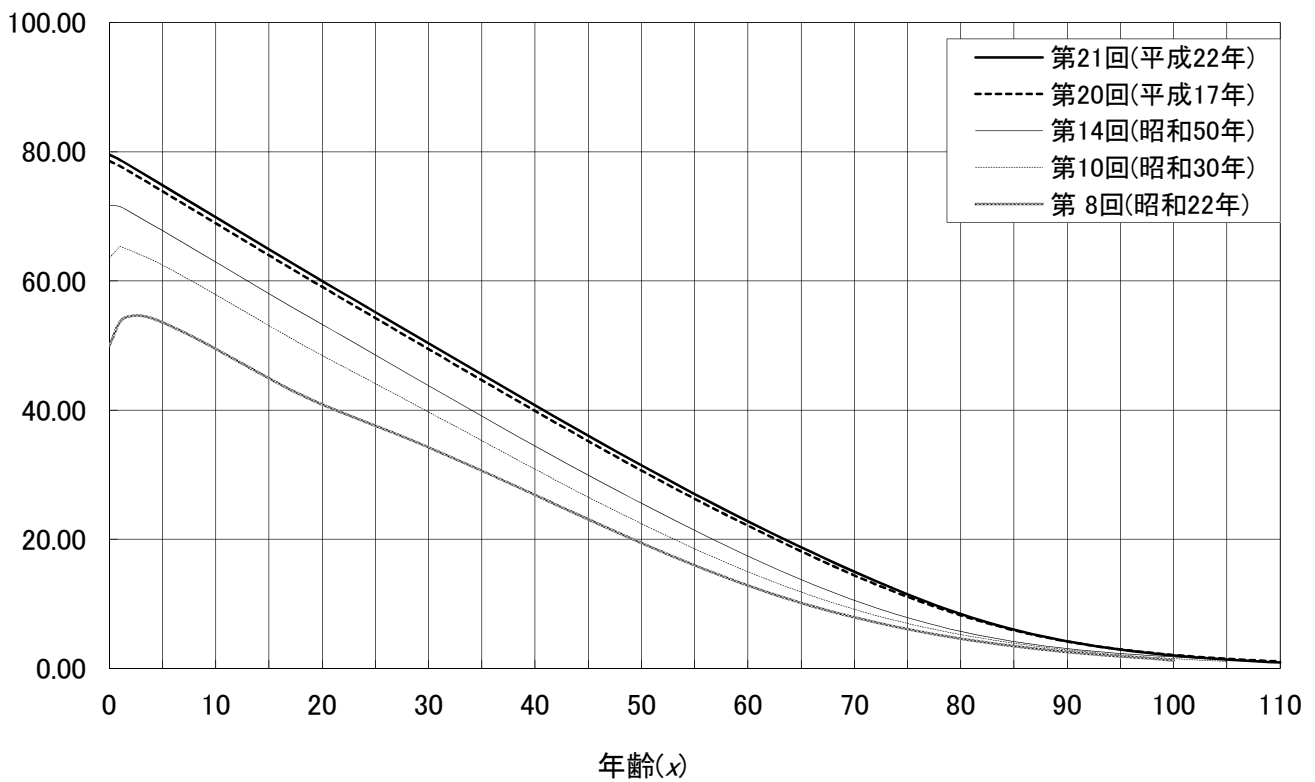
生存数( $l_x$ )

(図3-2) 生存数の推移(女)



平均余命( $e_x$ )

(図4-1) 平均余命の推移(男)



平均余命( $e_x$ )

(図4-2) 平均余命の推移(女)

